

第2回地域連絡会ダイジェスト

第2回地域連絡会を開催しました。

両国地域 A～D エリアを横断して情報交換を図る地域連絡会が開催されました。第 2 回地域連絡会では、昨年度の両国春のまちブラの振り返りと、これからの取り組みに向けての意見交換を行いました。

開催概要

- 日 時： 平成 27 年 5 月 7 日（木）16 時 30 分から 18 時
- 場 所： 江戸東京博物館 学習室 1
- 出席者： 江戸東京博物館、NPO 法人隅田川・江戸文化観光振興会、
両国二丁目町会、緑三丁目町会、横網町会、菊川一丁目町会、
立川菊川まちづくり研究会、国技館通り商店会、
JR 東日本千葉支社、都営大江戸線上野御徒町駅 計 11 名
- アドバイザー： 大下先生（帝京大学経済学部観光経営学科長・教授）
- 事務局： 墨田区都市計画課、観光課 計 8 名

参加者からのご意見

両国春のまちブラ に関するご意見

- ・にぎわい祭りで行っていた国技館バックヤードツアーをまちブラに取り入れてはどうか。「相撲教習所」も見学できたらおもしろいのではないかな。
- ・それぞれのエリアで特徴が違うので今後おもしろくなりそう。
- ・菊川周辺まで来ている人が意外と多い。情報発信・誘引効果はあったと思う。
- ・次回は早めにイベントの周知をしてほしい。

情報発信と交流 に関するご意見

- ・にぎわい祭りがあったことを知らなかった。情報共有・周知を徹底してほしい。
- ・新発田市から堀部安兵衛のバスツアーが安兵衛公園まで来た。あやめやのぼりを頂いた。今後も交流事業をしていきたい。

今後の取り組み・アイデア に関するご意見

- ・開催エリアごとに少しずつイベントの時期をずらすなどの工夫も考えられるのではないかな。
- ・地域の活性化には人が集まればよいというものではない。まちの賑わいづくりが大切だと思う。
- ・浅草では浅草寺での滞在時間が短い分、人々が街中に出ることでまちの回遊性を高めているのではないかな。

今後の取組に向けてのアドバイス(大下先生より)

地域特性を生かす4つのポイント

その1 限定効果・口コミ効果を利用する

両国春のまちブラのアンケートで「満足度」が高いのは事前にイベントに期待していない表れとも言える。次回は期待値が上がっているはずなので、同じことをやっても満足度は上がらない。「今だけ・ココだけ・あなただけ」の限定効果と口コミ効果をうまく利用してほしい。

その2 INとOUTを別にする

まち歩きイベントではINとOUTを別にするとうい。国際観光では一般的だが、両国駅から菊川駅など、様々なパターンで行うと効果的である。

その3 まちの顔をつくる

両国には相撲や水辺以外にも鎮魂のイメージもある。イメージが複数あるので、様々な組み合わせをして売り出していくとうい。

その4 編集力を高める

それぞれのエリアで出てきた課題を今後どう編集していくかが大事である。

地域経済の活性力をあげる3つのポイント

その1 ヒューマンウェア（使い方・しくみ）をつくる

ハード（修景事業など）とソフト（観光振興など）が一緒となっていくことに加え、使い方やしくみなどのヒューマンウェアを考えていくことが大事である。

その2 プロモーションのツールをつくる

グランドデザインをPRするためのツールを考えることが必要。そのために観光協会等と連携していくことが必要である。

その3 情報の新しい広小路をつくる

様々な情報を集めるだけではなく、制御して精査しながら発信していくことが大事である。両国橋の広小路が賑わったように情報の新しい広小路がつけられるといいのではないかな。